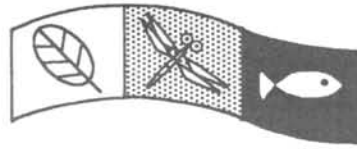


Ria



リオ ~ 豊田市矢作川研究所 月報 ~ No. 35

連載

ちののくち

児ノ口公園の四季

3月 最終回

成瀬順次



児ノ口公園で黄色の花を咲かせるサンシュユの木

杉山 巨氏撮影

原風景、世代交流、自然の風・・・いろいろな言葉を思い出させてくれる児ノ口公園。日本が今、忘れかけている大切なモノを我々にもう一度気づかせようと、必死になって毎日毎日訴え続けています。

私も杉山さんをはじめ多くの先輩たちに日々教えられる毎日です。読者のみなさんも、地元で同じような思いをしてみえることでしょうか。

さて、3月の児ノ口は旅立ちの月です。ホタルの幼虫が里親に見守られながら五六川へ放流されました。去年、里親の夫婦が飛び始めたホタルを見に来られた時、ちょうど一匹のホタルが飛び立ち、一度上流へ向かい、そしてスーッと回って橋の上の奥さんの掌に乗りました。それを見ていた多くの人達から拍手が沸き上がりました。あの感動をもう一度味わいたいと、里親一人一人が送る言葉を伝えながら放流しました。

最後に読者のみなさんが児ノ口公園に来園されることを楽しみに待っています。四季を着にうまい酒を飲みましょう。カンパ〜〜イ。

3月の自然

里山の紅梅、白梅、そしてちのの庵の脇のすばらしい黄梅も今が盛りです。ユキヤナギが白くて小さい可憐な花を見せ始めています。メダカ、ドジョウが泳ぎ始めました。それを目当てに、先日来ゴイサギの夫婦がしばしの逗留を決め込みました。(なるせ じゅんじ)





手作り！「矢作川文献データベース」

小川 都

矢作川研究所では、「矢作川文献データベース」の作成を進めています。これは、矢作川について調査研究した文献はもとより、少しでも矢作川に関連している文献を探し、まとめておいて、「矢作川に関する文献の所在は、矢作川研究所に問い合わせればわかります」と言える状態にするためです。しかし、一口に「文献を探し出す」と言ってもなかなか研究所員だけで賅い切れるものではなく、より多くの方々に文献を紹介していただけたらと考えています。今回はそのためにも、「矢作川文献データベース」の作成の目的、文献の整理方法や進行状況を説明します。

・目的

(その1：資料の共有によるネットワーク作り)

研究所が進めている作業は、研究所に文献を集めるための作業ではありません。「あそこに行けば、あれがある」という情報をまとめる作業です。これは研究所が「矢作川によるネットワーク」の確立を目指しているからです。多くの研究機関と人との連携を、矢作川を軸にとりまとめていくためのきっかけとして、文献データベースの充実、活用を考えています。

(その2：研究に対するニーズの掘り起こし)

データベースは、矢作川に関する多くの課題や疑問に対応できることを目指しています。例えば、ある文献からカワシオグサのことを知った人が、「カワシオグサがこの年は異常繁殖しているが、アユの遡上はどうだったんだろう」などと疑問を持ったときに、「矢作川文献データベース」からアユの研究資料を探し出し、連鎖的に矢作川についてより多くのことを知る機会が得られます。このように、矢作川に関する研究を公表する機会を増やすことで、矢作川への興味を育てたり、新たな研究課題を開発することができます。多様なニーズの吸収と開発の場として、「矢作川文献データベース」が活用されることを目指します。

・文献の整理方法

「矢作川文献データベース」は、1つの論文あるいは書籍につき、1枚のカードを作って、文献の情報を集積します。カードには、書名・著者名・発行者・発行年・目次・文献所在地・所在地

ふりがな よくりようされなおうつくしいやはぎがわのそうぞうをめざして
 タイトル よく利用されなお美しい矢作川の創造をめざして
 サブタイトル 矢作川の現況・課題・豊田市矢作川研究所の設立

掲載書名 矢作川研究 巻・号 1
 著者 新見幾男 編集
 出版社 豊田市矢作川研究所 刊行年 1997 1-6 頁

目次

- 1 矢作川の概要...1
- 2 矢作川の特徴...1
- 3 河川利用率...1
- 4 河川の自然度...2
- 5 泥水による汚濁...2
- 6 矢作川の水の文化...2
- 7 豊田市矢作川環境整備計画検討委員会の設置...3
- 8 豊田市矢作川研究所の誕生...4
- 9 矢作川の今後の課題...4
 - 1 矢作川の今後の課題
 - 2 慢性汚濁（透明度の悪化）への対策
 - 3 河川維持流量の確保
 - 4 河川維持土砂流量の確保
 - 5 天然アユ復活のための生態調査
 - 6 多自然型（近自然型）の矢作川づくり
 - 7 矢作川の文化事業

注釈

所在地
 研究所

資料状況

閲覧 貸し出し
 コピー homepage
 上での公開

作成日 2001.3.21 修正日 2001.3.21

カード見本

での資料状況（本が借りられるかどうかなどの資料公開状況）などの項目を設けました。「目次」項目によりカードの段階で、文献の内容が判断しやすくなると考えています。

・進行状況と今後の課題

2001年3月現在で、矢作川研究所・豊田市役所各課・豊田市中央図書館での「検索」がほぼ終了し、これら3機関に保管されている矢作川関連の文献が記録されました。カード枚数は約470枚です。これらはほとんどが書籍で、大学の紀要や各種研究団体が発行する学会誌の論文はまだまだ把握しきれっていません。そのため、論文の検索と入力作業を最優先におこなっています。また、多くの活用を目指すためにも、より多くの情報を入力することはもちろん、使いやすく、楽しい検索機能を付け、来年度中の開発・試運転をめざして作業しています。なお、これまで入力した文献データは、近々、矢作川研究所のホームページから一覧表へとアクセスできる予定です。一覧表を見て、目次など詳細内容に問い合わせのある場合は、矢作川研究所まで、ご連絡をお願いします。

「多くの情報量とよりよい質」を目指して、「矢作川文献データベース」の作成を続けていきます。みなさんのご意見・ご協力をお待ちしています。

(おがわ みやこ)

矢作川観察ノート

(11) 川の風景の中に石をおく人

新見 幾男



日本の近自然河川工法をリードしてきた矢作川
の古舁（ふっそ）水辺公園は、昨年9月12日朝の
空前の規模の大洪水で破損した。9基の水制工の
うち上流側の3基が大きく破壊された。水制工の
ある側の左岸の河床と河岸が削り取られて深掘れ
し、流心から右岸よりは逆に石や砂利で埋まって
しまった。

あまりの惨状の前に、河川管理者も地元住民、
漁業団体側も暫し茫然の体だったが、まず地元の
古舁水辺公園愛護会と矢作川漁業協同組合が流木
や倒木、ゴミを片付け、同年12月までには愛知県
河川課、愛知県豊田土木事務所、豊田市河川課が
「復旧」を決定し、復旧工法について豊田市矢作
川研究所や地元団体と協議を始めた。

復旧工法の協議では、単なる原形復旧にとどめ
ず、最新の近自然技術で改良復旧する方向が確認
された。矢作川・古舁水辺公園から近自然の技
術・思想を発信し続け、全国の河川工事のパイオ
ニアであり続けたいという意思が、河川管理者側
から地元諸団体に提起され、その協議が整ったの
である。日本の近自然河川工法の開祖であり、こ
の工法の日本語訳の名付け親でもある西日本科学
技術研究所（高知市）の福留脩文所長（土木技術
者）に、技術指導と工事監督が委託された。福留
氏が開発した最新の石組みの理論・技術が、福留
氏の直接の技術指導のもとに、はじめて矢作川に
導入されることになった。

矢作川・古舁水辺公園の前史にふれておきた
い。1991年秋、当時の加藤正一市長の決断で、豊
田市は官民合同の欧州近自然河川工法調査団をス
イス・ドイツに派遣した。その時の調査団長が福
留脩文氏であり、福留氏の両国での人脈に助けら
れ、豊田市の調査団は近自然の確かなコンセプト
をつかむことができた。

その調査団に、愛知県豊田土木事務所の若い技
術者たちが参加していた。帰国直後の1991年度末
に、彼らは豊田市扶桑町（古舁は扶桑の旧地名）
地先の矢作川に、スイス・トゥーア川の事例を参
考に2基の水制工を実験施工した。翌92年度末に
は7基の水制工を連続配置し、さらに寄石護岸も
施工して水辺に遊歩道を整備した。小洪水のあと
の93年度末の補修工事を経て、延長約800メー

ルの近自然型護岸工事は完成した。

その800メートル区間に地元側が「古舁水辺公
園」と勝手に命名し、その水辺の管理団体として
「古舁水辺公園愛護会」を自主結成して、今日ま
で豊田市河川課と共に営々と整備を続けてきたの
だが、前述の空前の洪水でそれが大破してしまっ
たのである。

さて、改良復旧工事の話だが、3月17日、福留
脩文氏が2泊3日で2度目の現地入りをし、陣頭指
揮で地元建設会社（那須組）の石組み作業を指導
していた。最上流の大破した水制工は放棄された。
2基目と3基目の中破した水制工が、大型化・強化
の方向で全面改修されていた。



古舁の工事現場で福留脩文氏が図面を書いて技術伝授

水制工の先端部には1個数トンの巨石が河床深
く埋め込まれていた。要所要所に同様の巨石がフ
ィックス・ポイント（カ石）として埋め込まれ、
それを支える巨石（根石）が福留理論によって組
み込まれていった。翌日からは地元技術者だけで
作業しなければならない。現場で図面を書きなが
ら技術の伝授が続き、それを20人程の関係者が見
守っていた。91～93年度には、こういう技術指導
はなく、民間まかせだった記憶だ。福留氏に技術
指導は委託されなかったし、福留氏の水制工理論
もまだ完成していなかったと思う。福留氏が「こ
れで100年は壊れないでしょう」と言っていた。

矢作川は巨大な堤防で堰き止められ、水流は中
洲の向こうの分流へ廻されているから、工事現場
の河床に水はない。水制工の沖の河床（水を流す
と滞筋になる部分）には巨大な川石が持ち込まれ、

